

丹波地域大学連携フォーラム

若い力で元気な丹波を ～地域と学生のために～

報告書

平成26年12月13日（土）12:30～18:00

古市場公民館（丹波市柏原町柏原）

主催：丹波地域大学連携フォーラム実行委員会

（関西大学、関西学院大学、神戸大学、篠山市、丹波市、兵庫県丹波県民局）

はじめに

丹波地域では、現在、関西大学、関西学院大学、神戸大学の3つの大学が活動拠点を確保し、各地域の課題を踏まえたテーマのもとに、学生が中心となって地域を活性化しようとする取組を展開されています。また、大学での授業やゼミ活動の取組とは別に、自主的に地域と連携して活動を実践する学生グループも出てきています。さらに、昨年度からは、神戸親和女子大学が丹波市山南町久下地区に入り、カントリーハウスの提案などの活動を開始したほか、各地で様々な大学が地域と連携した活動を始めています。このような背景を踏まえ、丹波地域で活動する大学などが、相互の交流を通じてネットワークの形成を図ることを目指し、「若い力で元気な丹波を～地域と学生のために～」をテーマに「丹波地域大学連携フォーラム」を開催しました。

当日は、関西学院大学の活動地である丹波市柏原地区の現地視察と学生グループからの活動報告により、それぞれの活動内容について相互に理解を深めたのち、フリーディスカッションにおいて“若い力で元気な丹波を”について参加者全員で意見交換し、地域と学生の相方にとって有効な活動内容について展望しました。

現地視察では、関西学院大学の学生が先導する形で、班毎に分かれて柏原地区の旧跡や特徴的なまちなみが形成されている箇所などを巡り、柏原地区の歴史や文化に触れていただきました。

さらに、学生グループからの活動報告では、「使われていない駐車場の活用」や「商店街に掲げられた旗のデザイン提案」、「映像化による地域の魅力発信」、「ツリーハウスの建築」といった学生ならではの視点に基づいた取組について発表していただきました。また、社会人になってからもイベントのために地域に戻って来る方がいることや、地域のお祭りを友人と顔を合わせる同窓会の場としていきたいといった思いも寄せられました。学生が「活動の場」として地域を考えているだけではなく、楽しい場所、地域の方や友人に会える場所として捉えることで、地域と良好な関係を築いていこうとする学生の姿勢を感じることができました。

ワークショップ形式のフリーディスカッションでは、現地視察のメンバーに柏原高校の生徒を加え、班毎に分かれて「地域と学生の相方にとって有効な活動内容」について意見交換し、結果発表を行いました。その中で、「お互いを知ることが大事」、「知り合い、友達ができる活動」、「学生目線と地域のニーズの融合」といった提案があり、このような学生たちの発想をもとに、今後の活動の方向性が少し明確になったと感じました。

フォーラム開催後には懇親会も開催され、情報共有や議論の続きが賑やかに交わされ、学生たちの交流がさらに深まったことと思います。

今回のフォーラムを一つのきっかけとして、学生たちの連携のネットワークが更に広がり、地域と関わり続けることでまた新たな動きが起き、丹波地域がより一層活性化していくことを願っています。

最後に、このフォーラムの開催にあたり多大なご協力をいただきました各大学や地域の関係者の方々、また、当日ご参加いただきました多くの方々に、改めて深く御礼を申し上げます。

目 次

1. 開催状況の写真	1
2. 開催概要	5
3. 開会挨拶	8
4. 主催者挨拶	9
5. 学生からの地域貢献活動実施報告	10
(1) 柏原まちづくりプロジェクト	10
(2) 関西学院大学法学部 4 回	20
(3) 関西学院大学法学部 3 回	25
(4) 里山プロモーションチーム	31
(5) ささやまファン倶楽部	35
(6) はたもり	39
(7) 学生団体 TMP	46
6. 学生を受け入れている地域団体からの報告	49
7. ゲストによる講話	50
(1) イオンモール株式会社 松田 卓也	50
(2) 神戸大学大学院人間発達環境学研究科 長井 拓馬	57
8. フリーディスカッション・ワークショップ	63
9. 講評	71
(1) 関西大学 TAFS 佐治スタジオ 室長 出町 慎	71
(2) 京都大学大学院地球環境学堂持続的農村開発論分野 助教 鬼塚 健一郎	71
(3) まちづくり柏原 代表取締役 荻野 吉彦	72
(4) 関西学院大学法学部 教授 山下 淳	72
(5) 関西学院大学総合政策学部 准教授 客野 尚志	74
10. 神戸大学と地元レストランが共同開発した試作品について	75

11. 参考資料	76
(1) 参加者事前アンケート回答	76
(2) 当日参加者アンケート	80
(3) 開催チラシ	87
(4) プログラム資料	88
(5) 実行委員会	92

1. 開催状況の写真

(1) 開会挨拶



実行委員会副会長代理 客野 尚志 関西学院大学 准教授



会場の様子

(2) 活動報告 1



柏原まちづくりプロジェクト（関西学院大学）



関西学院大学法学部 4 回



関西学院大学法学部 3 回



渡辺 修 柏原まちづくり協議会 会長

(3) 現地視察



現地視察の様子①



現地視察の様子②

(4) 活動報告 2



里山プロモーションチーム（京都大学）



ささやまファン倶楽部（神戸大学）



はたもり（神戸大学）



学生団体TMP（立命館大学）

(5) フリーディスカッション



清水 陽子 関西学院大学総合政策学部 准教授 (コーディネーター)



松田 卓也 氏(ゲスト)



長井 拓馬 氏 (ゲスト)



山下 淳 関西学院大学法学部 教授



出町 慎 関西大学TAFS佐治スタジオ 室長



鬼塚 健一郎 京都大学大学院地球環境学堂 助教



ワークショップの様子



結果発表の様子



集合写真

2. 開催概要

丹波地域では、様々な大学が地域に入り、フィールドワークや農作業の手伝いなど、各地域の課題を踏まえ、それぞれ違ったテーマで学生たちが独自に地域貢献活動に取り組んでいます。

これらの学生が参加するフォーラムを下記のとおり開催し、それぞれの活動内容について相互に理解を深めるとともに、参加者全員で意見交換し、活動継続の方向性について展望しました。

記

- 1 日 時：平成 26 年 12 月 13 日（土）12:30～18:00
- 2 場 所：古市場公民館（丹波市柏原町柏原）
- 3 テー マ：「若い力で元気な丹波を～地域と学生のために～」
- 4 参加者数：70 名（学生、大学関係者、地域住民 他）

関西学院大学	19人	柏原高校	7人
神戸大学	5人	大学関係者	6人
京都大学	4人	地元	8人
立命館大学	9人	県、市	8人
奈良女子大学	2人	ゲスト	2人
計		70人	

5 内 容：

(1) 12:30～13:30 地域貢献活動報告①

- ・学生からの活動報告（柏原まちづくりプロジェクト、関西学院大学 4 回、関西学院大学 3 回）
- ・柏原まちづくり協議会より「柏原地区におけるまちづくり活動」について報告（会長 渡辺 修 氏）

(2) 13:30～14:40 現地視察

- ・関西学院大学学生の案内による柏原地区のまち歩き

(3) 14:40～15:55 地域貢献活動報告②

- ・学生からの活動報告（里山プロモーションチーム、ささやまファン倶楽部、はたもり、学生団体 TMP）

(4) 15:55～18:00 フリーディスカッション、ゲストによる講話

○会場：古市場公民館

○コーディネーター：関西学院大学総合政策学部 清水陽子 准教授

- ・ゲストによる講話（松田卓也 氏、長井拓馬 氏）
- ・参加者全員による意見交換、ワークショップ

6 主 催：丹波地域大学連携フォーラム実行委員会

（関西大学、関西学院大学、神戸大学、篠山市、丹波市、兵庫県丹波県民局）

7 事 務 局：兵庫県丹波県民局丹波土木事務所まちづくり建築課

8 結果概要：

《活動報告1》 柏原まちづくりプロジェクト

丹波市柏原町地区においては人口減少により中心市街地の衰退が進んでいる。そこで、「中心市街地から離れた場所で行われているイベント参加者が中心市街地に足を運んでくれない」、「通過交通が多くて危険である」という現在の課題に着目し、紐絵アートの設置と駐車場を活用した長屋の建築による新たな動線の整備により、魅力的なまちを作りたいと考えている。

《活動報告2》 関西学院大学法学部4回

丹波市柏原町の地域活性化をゼミの研究テーマとして、実際に柏原に足を運んで現状を見つめながら様々な提案をすることを活動内容としている。これまでの活動内容としては、柏原町内にあるお店への取材を通じて「柏原の本」を作成したり、商店街の旗について城下町の景観を活かしたデザインの提案を行っている。

《活動報告3》 関西学院大学法学部3回

丹波市柏原町を活動地域として、今年度は夏祭りへの参加、柏原の子供達の郷土愛を育む活動、柏原の飲食店を紹介する冊子の作成を行っている。子供達の郷土愛を育む活動として子供の親を対象にアンケートを実施したところ、「塾が少ない」や「病院（小児科）、子供が遊べる施設、大きな公園が少ない」という結果となったことを踏まえ、今後の活動につなげていきたいと考えている。

《活動報告4》 里山プロモーションチーム

篠山市桑原集落における学生と住民共同の映像作りを目的としている。地域の魅力を発見し、そこで感じたものを映像として記録する。それをインターネットで外部に発信したり、地域内で上映会を実施することで、魅力の再発見、共有といったプロセスを通じて地域への愛着や関心等の向上を図りたいと考えている。

《活動報告5》 ささやまファン倶楽部

篠山市真南条上集落で農作業ボランティアや里山整備、ビオトープ整備等を行っている。なぜサークルという形で自主的に地域に通うのかについて、「地域へ貢献したい」「里山整備がしたい」「みんなでワイワイしたい」「農村風景を見てリフレッシュしたい」といった様々な目的を持っており、それを踏まえて今後も活動していきたい。また、それぞれの立場であり無理をせず地域のために何か出来ることをしていこうと考えており、楽しさを大切にすることで無理せずに活動を続けて行ければと考えている。

《活動報告6》 はたもり

篠山市畑地区を盛り上げるために、伝統行事である畑祭りへの参加等を行っている。畑祭りの魅力は学生が地域の中に溶け込めるような祭りである点で、多くの活動メンバーも畑祭りへの参加を毎年の習慣として楽しみにしている。活動メンバーは4回生なので今後就職や進学を迎えることになり、来年以降の畑祭りが気掛かりであるが、畑祭りを年1回みんなが顔を合わせる同窓会の場とすることで今後も関わり続けることができないかと考えている。畑祭りは伝統行事というだけではなく、人が集まるきっかけを提供している場になっているため、大切にしていきたいと考えている。

《活動報告7》 学生団体TMP

丹波市の悠遊の森を拠点として、丹波を元気づけること、地域と学生を結びつけていくこと、建築の専門的学問を活かして学びの場としたいという3つのコンセプトを軸に「もの作りを通して繋がる地域のコミュニティ」を理念として掲げて活動している。今年はツリーハウスを作成したが、材料の一部に竹を取り入れることで竹害問題に取り組

んでいる。また、作って終わりではなく竹のメンテナンス時にイベントを開くことで、今後も丹波市と繋がっていき
たいと考えている。

《フリーディスカッション・ワークショップ》

コーディネーター 関西学院大学総合政策学部 清水陽子 准教授

「地域と学生の両者にとって良い活動」について、班ごとにワークショップを行い、結果発表を行った。その中
で、「お互いを知ること」、「知り合い、友達ができる活動」、「学生目線と地域のニーズの融合」といった提案があり、
講評では、「自分たちにとって良い活動というのはイメージ出来るが、地域の方にとって良い活動というのはイメー
ジしにくい。」「地域や地域で活動されている方、行政等との適切な距離について考えることが大切」「地域の課題や
地域の考えていることについて、まずは真摯な態度で真摯にお話を伺うこと。」といったコメントが寄せられた。

3. 開会挨拶

丹波地域大学連携フォーラム実行委員会 客野 尚志

皆様こんにちは。客野と申します。私ども、角野教授が委員に入っておりまして、本来角野教授からご挨拶すべきところですが、今日は代理ということで私の方からご挨拶させていただきたいと思います。よろしくお願いいたします。

実は私事なのですが、私共の大学では卒業論文の提出が4日後に迫ってしまっていて、青い顔で学生も教員も取り組んでいるのですが、私の持っているゼミが都市環境とか建築環境、それからまちづくり、こういった領域を扱っており、基本的に何を行ってもいいということになっており、一人の学生の研究が今回のお話に関係するのでご紹介したいと思います。何を行っているかというところ、コラボレーションによって発想がどう変わるか、視点がどう変わるかという研究を行っておりまして、まちづくりを専門としている学生と、マーケティングを専門としている学生にそれぞれある提案をしてもらいます。その提案をして、その提案をした結果を異なる分野の人たちがお互いにディスカッション、グループディスカッションして、そしてその2回目の提案が1回目の提案と比べてどう内容が変わったのかを評価する研究をしました。すると面白い結果が出まして、「知識が増える」、これは当たり前なのですが、多変量解析という少しややこしい統計的な作業を行った結果、1回目の提案はその提案を整理する軸を考えると、まちづくり、空間的、計画的な軸かマーケティングの軸か、それぞれの専門に準拠したアイデアが整理できるという形になります。それでグループディスカッションをした2回目の後なのですが、2回目はその専門に関する軸というのは後ろの方に引っ込んで、もう少し内容に関するものに考え方の軸が変わってきました。これを見ていて思ったのですが、今回も様々な分野の方、様々な学部、個性、考え方、知識の方が集まってきて、それぞれ丹波で多様な活動をされています。それをお互いに話し合っ、て、共有して、フィードバックを行うことにより、もちろん知識はいっぱい増えてきますし、それだけではなくて、自分のされている活動を相対化して、なおかつそこから考え方の視点をうまく変えるきっかけになるのではないかと期待しております。また、それを通して皆さんのアイデアがより良いものになって、丹波に良いフィードバックをお返しすることができることを一つ期待しております。また、OBである先輩方に来ていただいておりますので、先輩方がこのまちづくり活動をしてきたことを通して、今社会の中でどのように活用されているのか、社会とまちづくり、現実の違いということを含めて、とことん疑問とか考え方をぶつけながらいろんなアドバイスをしてもらって皆さんの将来につなげていただきたいと考えております。また、おいしいサプライズがあるそうですのでそれも楽しみにしながら、あまり堅苦しくない会議ということですので是非楽しみながら1日過ごしていただければと思います。それではよろしくお願いいたします。

4. 主催者挨拶

兵庫県丹波県民局まちづくり参事 足立 寿伸

丹波県民局局長であります藤原局長が都合が悪く本日出席できないということで、藤原局長より挨拶文を預かっておりますので、それを代読させていただきます。

「皆様お早うございます。丹波県民局長の藤原でございます。本日は、丹波地域大学連携フォーラムが開催されますことを大変嬉しく思っております。学生の皆様、ご指導していただいております先生の皆様、そして地域の皆様、本日はご参加いただきまして本当にありがとうございます。

皆様ご存じかと思いますが、この丹波地域は8月の豪雨により甚大な被害を受けました。この災害では、被災直後から数多くのボランティアの方々にご協力をいただきました。本日の参加者の中には被災地でのボランティア活動に参加いただいた方もいらっしゃるかと伺っております。皆様の支援により、速やかな復旧が得られましたことを、この場を借りてお礼申し上げます。

さて、丹波地域の特色ある取組として大学連携がございます。残念ながら丹波地域には大学がありませんが、この地域に拠点を構えて活動していただいている関西学院大学、神戸大学、関西大学、また京都大学や立命館大学の学生の皆様に来ていただいていることを大変心強く思っております。学生の皆様におかれましては、このフォーラムを通じて大いに情報交換し、是非人の輪を広げていただきたいと考えております。そして丹波ファンになっていただきまして、度々この地を訪れていただきますことを期待しております。

最後になりましたが、本日のフォーラムが実り多いものになりますことを記念しまして、挨拶とさせていただきます。」